

インターバンクの声（2016年11月14日）

先週末は米国市場がベテランズ・デーのため債券市場と為替市場が休場となることもあって、東京市場の夕方には利益確定を中心にポジション調整によるドル売りが拡大、106円後半から前半まで80銭ほど調整が進んだ。105円台に再突入してしまうと、ドル高進行への期待感が一旦萎んでしまう可能性もあったが、106円割れの寸前ではドルの買い戻しも入り、その後はフィッシャー米連邦準備制度理事会（FRB）副議長が年内利上げに前向きと受け止められる発言をしたことや、予想よりも強かった11月の米ミシガン大学消費者信頼感指数がドル買いを後押ししたため、再度106円後半に戻すことになった。市場は今のところトランプ次期政権への期待感を保ったままで、インフレ率が上昇するとの見方も拡大しているが、ドルが主要通貨バスケットに対し9ヵ月ぶりに高値を更新していることや足許のドル円が購買力平価よりも円安に乖離し過ぎているとの声が出始めているのは気掛かりだ。金曜日のニューヨーク・ダウの上昇も全員参加によるものではなく、週明け2,3日の金融市場の動向を確認してみないと、さらにドル買いを進めるべきかどうかの判断は付き難い。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。